

2020年10月2日

内閣総理大臣	菅	義偉	様
内閣官房長官	加藤	勝信	様
防衛大臣	岸	信夫	様
環境大臣	小泉	進次郎	様
農林水産大臣	野上	浩太郎	様
沖縄・北方担当大臣	河野	太郎	様
沖縄防衛局長	田中	利則	様

公益財団法人 日本自然保護協会
理事長 亀山 章

普天間飛行場代替施設建設事業の工事一時停止と環境調査の実施に関する要望書

日本自然保護協会は、沖縄の生物多様性豊かな自然環境の保全に取り組んでいる立場から、以下の理由にもとづいて普天間飛行場代替施設建設事業の工事の一時停止と環境調査の実施を要望します。

この事業についての設計変更承認申請書を拝見しましたが、最近になり判明した軟弱地盤の実態や地盤改良工事の詳細が書かれていない、絶滅危惧種であるジュゴンの保護対策が不十分である、埋め立て資材に伴う外来種対策が考慮されていないなど、多くの不備があるものでした。

2019年10月には、米国のNGO ミッションブルーにより、辺野古・大浦湾一帯がホープスポット（Hope Spot：希望の海）に認定されました。対象の範囲は、辺野古・大浦湾を中心にした天仁屋から松田までの44.5平方キロメートルの海域です。この認定により、辺野古・大浦湾の生物多様性やそれを育む地形の豊かさが改めて国際的に認められました。

今年2月までにホープスポットを支持し、日本政府が工事を一時中止し環境調査を再度行うことに対し寄せられた24,235名の市民の署名を8月21日にお届けしましたが、8月末までに新たに届いた計1,798名（インターネット319名、紙媒体1,479名）の署名をお届けいたします。

日本の財産である生物多様性豊かな辺野古・大浦湾の自然を守ることは日本政府にとっても重要なことであると考えます。工事の一時停止と環境調査の実施をしていただくようお願いいたします。